

## 平成 28 年度事業計画

【事業実施期間】 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

### ☆事務局 事務局長 田廣定信

- 事務局として積極的な支援体制を整え、部会活動の活発化を支援する。
- 会員の継続依頼、新規会員・協力会員の開拓、更に会員特典についても検討し、会員目標169名を目指す。
- 会員継続及びボランティア保険の加入のお知らせを4月下旬に完了する。
- 会報ぽぽぽつうしんを年2回の発行の他、会員へメールでの情報提供の充実をはかる。
- 事務局会議の定期開催をskype会議を含めて実施し、ぽぽぽねっと全体の運営をサポートする。
- ホームページのサーバーをユーミンからライトマネージメントに移行し、更新の管理は引き続き金沢電子出版（株）に依頼する。
- 事務員の常駐者を月2万円（1日3時間、月8回）で引き続き中道佳子氏をアルバイト雇用する。
- 一般の方からの法人の活動の閲覧要求に対応できるよう各部会の活動データを整備する。また、会則等の整備をはかる。
- 事務所移転に伴うややのいえ利用のルール作りを進める。

### ☆いのちのすーぷの会 部会長 角谷淳子

#### ■活動内容

「生きることは食べること」をコンセプトに ややのいえの保健室、ぽぽぽのイベントブースなどや関連行事に、広く市民の皆さんに知っていただく機会を設け、がん患者さんなどへ広く情報がたつたわることとする。小松産の有機玄米で農家さんともつながりたいと考えてます。

#### ■活動予算案

事業の収支		当初予算	備考
収入の部			
参加費			
運営費	25,000		
収入合計	25,000		
支出の部			
予備費	25,000		
支出合計	25,000		
収支差額	0		

☆ぼぼ聞き書きの会 部会長 清水まゆ美

■活動内容

27年度同様、聞き書き講座と聞き書きカフェを開催する。

新たに、ややのいえの常設の聞き書き文庫の他に、協力施設への「こまつ聞き書き文庫」の設置のための活動を行う。また、外部より先生をお招きし、一般市民の方に聞き書きを広く伝える為の講演会を開催する。

○聞き書きカフェの開催（年3回 各20名）

- <内容例>・第1回：聞き書きのすすめ  
 ・第2回：聞き書き体で書いてみよう  
 ・第3回：一冊の本にするためには  
 （※参加者によって内容を変更する場合あり）

○講演会（年1回、公共の施設）

○聞き書き文庫の設置

■実施方法

○聞き書きカフェ

作品を仕上げていくことを目的に、より実践的な内容ですすめていく。  
 また、一緒に活動する仲間を増やす。

○講演会

多くの方に興味を持って頂く為に、講師と実践者の座談会形式で実施する。  
 早期に、小松広報やチラシを使って呼び掛けする。

○聞き書き文庫の設置

- <場 所>ややのいえ（常設）、病院・図書館などのサテライト文庫  
 <方 法>・聞き書きについて説明し、設置を依頼する。  
 ・サテライトは設置期間（3か月）を設ける。

■活動予算案

事業の収支	当初予算	実行予算	決算	備 考
<b>収入の部</b>				
運営費				
助成金	300,000			小松市委託金
<b>収入合計</b>	300,000	0	0	
<b>支出の部</b>				
文庫設置費	50,000			本棚等
講師謝金	110,000			聞き書きカフェ各2万円×3回、講演会講師5万円
講師旅費	50,000			
会場使用料	20,000			聞き書きカフェ3回、講演会
事務用品	20,000			
印刷製本費	30,000			聞き書き本製本 チラシ印刷、講座資料、他
通信運搬費	20,000			切手等
スタッフ謝金	0			
<b>支出合計</b>	300,000	0	0	

☆障がい者の居場所づくり 部会長 中川恵美

■計画内容

ハンディのある人や高齢者、その家族の暮らしにくい点を把握し、改善出来るよう、働きかける。

ハンディのある人や家族も安心して暮らしていけるまちづくりへの理解の啓蒙を行う。

- ・南加賀地域各所のバリアフリー状態、そこに携わる人の支援体制を確認し、小松市・小松短期大学・小松市障害者自立支援協議会と協働でバリアフリーマップを作成して、必要とする人に情報提供出来るようホームページを作成する。
- ・新規に施設建設の情報が得られるよう働きかけ、内容に関して提言や提案をする。
- ・ハンディのある人への理解を求め、誰でも参加出来るイベントを開催する。
- ・小松短大他と連携し、諸官庁の委託事業にも取り組む。

■実施方法

- ・バリアフリー状態の確認にあたり、訪問場所には事前に作成目的・内容を示し、依頼した上で日程調整をする。作成内容に関し、公表への理解を確認する。担当員は、法人の所属である事を明記する。内容をまとめ公開する。
- ・現地調査・編集・公開に際し、小松市障害者自立支援協議会や小松短大と協力し、より市民に役立つものを創り上げる。
- ・ハンディのある方や家族の語らいの場所づくりをする。

■その他の特記事項

小松市の「ひとにやさしいまちづくり事業」との連携を図り、まち全体が住みやすくなるよう考える。

■活動予算案

事業の収支		当初予算	備 考
<b>収入の部</b>			
	運営費	60,000	
	<b>収入合計</b>	60,000	
<b>支出の部</b>			
	旅費交通費	10,000	
	印刷製本費	38,000	
	備品費	5,000	
	事務用品費	7,000	
	<b>支出合計</b>	60,000	
	<b>収支差額</b>	0	

☆子育て中の親子の支援事業 部会長 田廣洋子

■計画内容

小松市すこやかセンターから紹介を受けた育児に不安や困難さを抱える親を対象に、ぽぽぽねっとが小松市より業務委託を受け、継続的な支援を行うことを目的とする。

参加者が共通の悩みや興味関心を持つ人々との出会いの場となるように配慮し、地域の状況や情報の提供とともに参加者同士及び専門職が知恵を出し合い、子どもの発達に応じたそれぞれの子育ての仕方を見つけていくことができるように、育児支援と親の心理的支援を行う。

1. そらまめ教室

毎月4回 午前10時から11時30分まで参加者は二つのグループに分かれ、毎月2回隔週で参加する。実施日及び内容については、後日 自分らしい子育て支援事業（そらまめ教室）年間実施計画書を作成する。

2. 個別相談

そらまめ教室実施日の午後1時から3時まで、予約制で実施する。助産師・保育士各1名が担当する。

3. 個別訪問相談

予約制で随時実施、助産師・保育士各1名が担当する。

■実施方法

そらまめ教室の各月1回目は、簡単な手作業(手芸・園芸・料理・おもちゃ作り)や手遊び、絵本の読み聞かせなどをおして参加者親子と支援者がともに楽しむ中で、子育てのヒントを見つけ、子どもの発達成長を喜び、生活への意欲が持てるようにする。

各月2回目は、参加者が安心して日頃感じている不安や悩みなどを相談できるように配慮し、お茶の席を持ちながらゆっくりと話し合いのできる場とする。

個別相談、個別訪問相談はすこやかセンターの要請を受け実施する。

支援者は、すこやかセンターとの情報の共有・連携を図りながら事業を実施する。

■その他の特記事項

平成28年度より部会長を辻悦子から田廣洋子に交代します。

■活動予算案

事業の収支		当初予算	備 考
<b>収入の部</b>			
	委託料	720,000	小松市より
	<b>収入合計</b>	<b>720,000</b>	
<b>支出の部</b>			
	諸謝金	570,000	3,000円×190回 延べ数)
	会場費	62,500	5,000円×7か月 5,500円×5か月 暖房費含む)
	通信運搬費	500	
	事務用品費	6,000	
	消耗品費 材料費)	65,000	
	雑費	16,000	ボランティア行事保険 年間
	<b>支出合計</b>	<b>720,000</b>	
	<b>収支差額</b>	<b>0</b>	

☆次世代育成事業 部会長 榊原千秋

■活動内容

28年度からは、これまで大学生を対象とした育成事業から福祉事業従事者や市民を対象とした研修等に重きを置き、行政からの委託を受けて実施する。

■事業名 小松市認知症ケアコミュニティマイスター養成研修会

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

■事業内容

<事業の具体的内容>

認知症ケアコミュニティマイスター養成研修会の開催（新規）

- 認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちを実現していくためには、多主体多職種で協働できる人材の育成が重要である。
- 地域包括支援センターと各地域の医療機関・介護サービス事業所を対象とする。
- チームディメンティアの研修会と連動し、本養成研修会では、単に知識や技術の習得だけでなく、多様な地域のニーズに対応し、アクションプランを立案し実践できる人材を育成する。

<実施スケジュール>

4月 研修案内の作成 5月—3月 研修会の開催

<事業の実施体制>

担当者 NPO法人いのちにやさしいまちづくりぽぽぽねっと理事長 榊原千秋

協力者 こまつおもいやりのまちづくりプロジェクト

代表 恵仁クリニック院長 村井 裕

認知症ケアコミュニティマイスターの養成 20—30人

<事業の将来展望>

認知症ケアコミュニティマイスターは、これからの小松市の認知症ケアサポートシステムの核となる人材として期待できる。

■活動予算案

事業の収支		当初予算	備 考
<b>収入の部</b>			
	委託料	1,200,000	小松市より
	<b>収入合計</b>	1,200,000	
<b>支出の部</b>			
	諸謝金	700,000	講師謝金 25,000円×28
	旅費交通費	210,000	講師旅費 東京⇄小松X5回
	印刷製本費	20,000	チラシ・ポスター
	消耗品費	80,000	
	会議費	20,000	研修会運営会議X12回
	人件費	170,000	認知症ケアコミュニティリーダー養成研修 5,000円X34人日
	<b>支出合計</b>	1,200,000	

☆ぼぼぼいのちの学校 部会長 鈴木森夫

■計画内容

1. 高齢者も若者も子どもも、病いや障がいを抱えていても、誰もが安心して自分らしくいきいきと、楽しく幸せに暮らし続けられる、コミュニティヘルスのあるまちづくりをめざして、「場づくり」「人づくり」「つながりづくり」をモットーに、共に楽しく学び、共に語り合い、地域に発信する場を提供する。
2. 「ぼぼねっと」が行う様々な事業を、広く市民に知らせ、気軽に参加していただく、きっかけづくりの場、「市民公開講座」としても活用する。
  - ・「よくわかる学習・交流会」（年6～7回隔月開催）
  - ・「ぼぼぼ保健室」「ぼぼぼカフェ」は、ややのいえの暮らしの保健室に移行する。

■実施方法

- ・「学習・交流会」については、「ややのいえ」を会場に、膝を突き合わせて学び・語り合う形態を基本にする。(30名定員、19時～21時)
- ・年1～2回は、土・日・祝日の昼間に、広い会場で「市民公開講座」として開催する。
- ・「ぼぼぼ保健室&ぼぼぼカフェ」は、「食事会」や「ものづくり」「ウォーキング」などの楽しい企画を通じて、参加者の「こころを軽くする」お手伝いをする。

■活動予算案

事業の収支		当初予算	備 考
<b>収入の部</b>			
参加費	108,000	会員 :500円×15名×6回	非会員 :700円×15名×6回
運営費	50,000		
<b>収入合計</b>	<b>158,000</b>		
<b>支出の部</b>			
諸謝金	90,000	15,000円×6回	
会場費	18,000	3,000円×6回	
印刷製本費	12,000		
消耗品費	10,000		
会議費	10,000		
<b>支出合計</b>	<b>140,000</b>		
<b>収支差額</b>	<b>18,000</b>		

☆事務局&魂のいちばんおいしいところ 事務局 松村朋枝

■計画内容

- ・「魂のいちばんおいしいところイベント」と銘打った全体イベントは、魂のコンサート第1回で2006年称名寺さんの本堂を拝借して行ったものを再現しようとの試みで下記の企画を進めたい。事業予算は、昨年度の保健文化賞の賞金から魂のいちばんおいしいところイベントに拠出する。

事業計画・予算書			
事業主体 (記入者)	魂のいちばんおいしいところ部会 (田廣定信)		
事業名	「魂のいちばんおいしいところ 20周年記念コンサート」		
目的	～魂の原点に戻る～ その場にいるだけで癒される場を提供する魂のコンサートをきっかけに再度こまつのまちが思いやりに溢れるまちづくりができるように発信して行きたい		
年月日・時間 (期間)	平成28年 10～12月 日曜日 13時30分～16時00分		
場所	称名寺 (小松市内：第1回コンサート会場) …要確認		
定員	100名 主な対象 : ぼぼぼ会員と一般市民		
運営体制	ぼぼぼねっと部会長会と事務局によるコラボレーション (実行委員は後日選出する)		
実施方針	魂のコンサート20年の歩み…榊原理事長 コンサート：100分、休憩20分 谷川さん親子への出演依頼と日時確認要 パネルによる部会紹介…休憩時間		
事業の収支	予算	備考	
収入の部			
参加費	50,000	@500円×100名	
協賛金	40,000	@2,000円×20社	
助成金	200,000	ぼぼぼねっと繰越金から助成	
寄付金	50,000		
収入合計	340,000		
支出の部			
諸謝金	100,000	ゲスト(谷川さん親子)…要確認	
旅費・交通費	50,000		
会場費	30,000	称名寺さんに要確認	
音響PA	100,000	宮崎さんに要確認	
印刷・製本費	20,000	チラシ、ポスター、チケット、当日パンフレット	
会議費	10,000		
予備費	30,000		
支出合計	340,000		
収支差額	0		